

課題になっている行動 (気になる行動)

荷物・道具などを
どこに配置してい
いかわからない

ち
いつた(カ)に
置けばいいの?

「違う違う」
もっ少し「ち」



監修・文 水野敦之 絵: 宗貞由貴子

環境・状況の要因	本人の特性	本人の経験や気づきの影響
<p>■ 様々な状況の変化 状況に応じて配置する場所が変わる</p> <p>■ 影響を与える刺激や情報 荷物や道具の配置には関係のないラインなどの情報やその他の刺激</p> <p>■ 必要な支援がない 本人がイメージできる状況ごとの配置する場所の指示がない</p> <p>□その他</p>	<p>■ 受容コミュニケーションの特性：曖昧な指示がわからない</p> <p>■ 社会性・対人関係の特性：周囲の人の状況に気をとめていない</p> <p>■ 注目の特性：関係の無い情報に引っ張られる</p> <p>■ 空間の整理統合の困難さ：周囲の状況を判断して物や道具の配置を決めることが難しい。</p>	<p>■ 習慣になっているものがある いつもの配置の仕方 (状況の変化に対応できない)</p> <p>■ 自分流の気づき・考え方をもつ 以前はこれでOKと言われた</p> <p>■ 過去に経験したこと学んだこと 1つの物又は道具で一度経験した配置の仕方</p> <p>■ 過去に経験したことにより恐怖や嫌悪感をもっていること 失敗経験により、自分で決めることが難しい</p>
<p>■ 行動前の状況※ 曖昧で理解できない指示 配置に関しての指示がない</p>		<p>■ 行動後の状況・結果※ 一度、OKだった 注意された</p>

活用できる他の資源	活用できる本人のスキル	活用できる本人の気づき
1対1で教えたり、相談をする時間、場所がある	文章、図解、表、フローチャート、ラベルの理解がある	慎重である 失敗したくない

支援計画 ※支援の具体的な計画は自立課題シートで整理する方法もあります		
環境を変える部分は？	本人の特性にあわせた支援は？	本人に伝える・教える部分は？
<p>・必要の無い過去のラインなどの刺激を消す</p> <p>・どうしても状況判断で理解できない部分を周囲から指示してもらう</p>	<p>・基本の配置を決め、ラベルや図などで指示する</p> <p>・状況による配置の変化を、表やフローチャートで指示する</p>	<p>・状況に応じた配置の仕方を事例を重ねて経験し、フィードバックし、調整する。自然な指示 (状況判断) に移行する。</p>

解説と支援の方向性について

曖昧で抽象的な指示の理解が困難です。具体的で明確な指示の方が自立的に自信をもって活動することができます。例えば、「そのあたりに貼って」よりも、印や見本を観て指示した方が具体的です。また、自閉症の人は周囲の状況を把握して物や道具・自分の位置を決めるのが得意ではありません。そこで空間を整理し物や道具、自分の位置をイメージ明確に指示することが必要です。